

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成27年1月12日(月)～1月18日(日) [第3週] の感染症発生状況

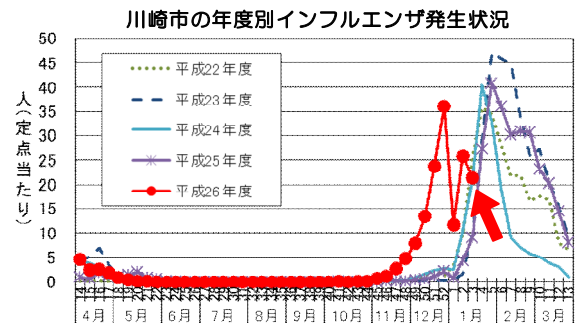
第3週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は21.41人と年明け以降減少傾向にありますが、依然として高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.64人と前週(8.36人)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.70人と前週(1.61人)からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。



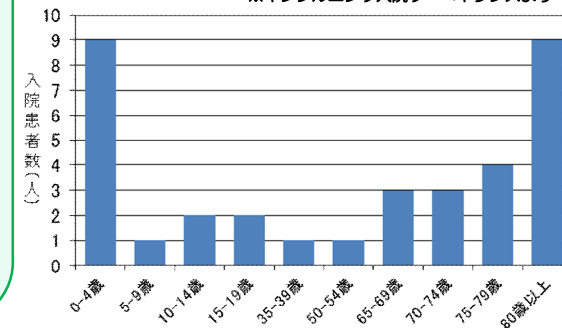
小児や高齢者は特に注意！～インフルエンザ～

川崎市におけるインフルエンザの患者報告数は、年明け以降減少傾向にありますが、**依然として患者数は多い状況です。**

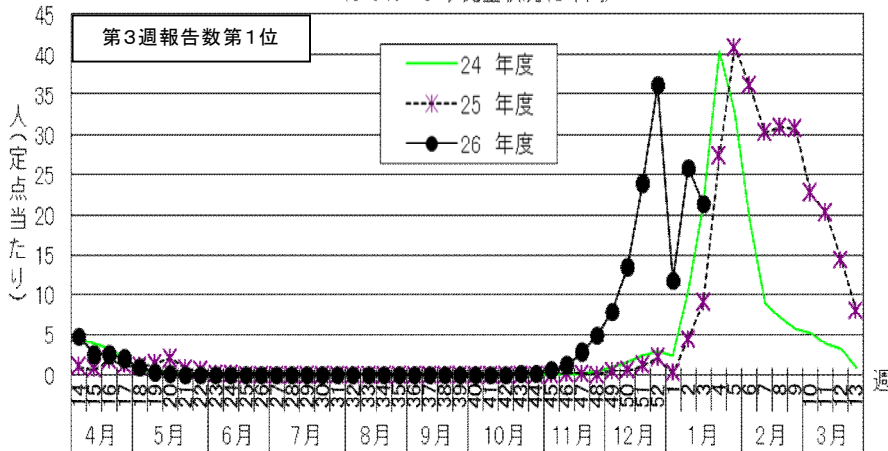
基幹定点病院を対象に実施している入院サーベイランスによると、今シーズンにインフルエンザで入院した患者35名のうち83%が小児(10歳未満)又は高齢者(65歳以上)でした。小さいお子さんや高齢の方は、特に予防対策の徹底を心がけましょう。



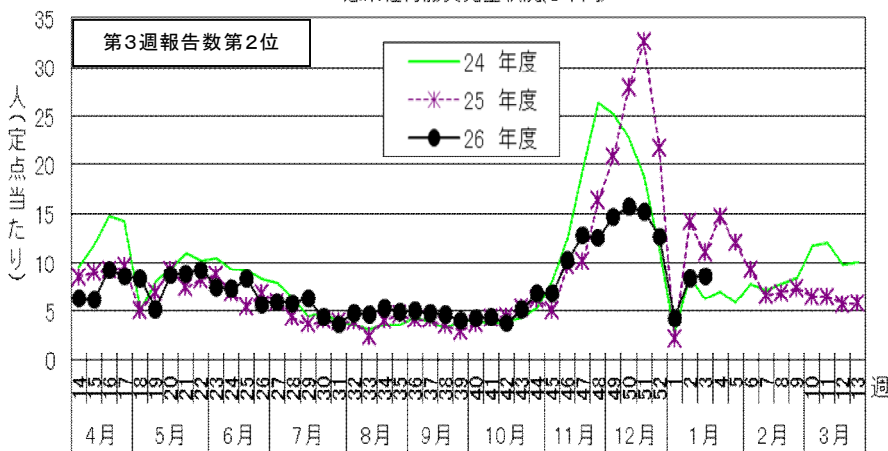
川崎市のインフルエンザによる年齢階級別入院患者数 ※インフルエンザ入院サーベイランスより



インフルエンザ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



入院時に呼吸管理をしていると報告された患者は全て高齢者でした。また、小児ではけいれんを起こしている事例が目立ちました。

呼吸器や心臓などに慢性的な病気を持つ方も重症になることが多いため、十分に注意する必要があります。